

提言 3 ・やさしい日本語を含めた多言語による情報発信を強化すること  
 ・やさしい日本語の普及啓発の推進を含め、外国籍住民に向けた有意義な情報提供方法を検討すること

主旨	内容
多言語による情報発信	回覧板が多言語表記になれば、「外国籍市民等と一緒に暮らしている」ということを日常生活レベルで感じることができると思う。
	市民しんぶんや区民しんぶんに外国語を入れていただきたい。
	漢字だと難しいので、外国人向けの英語版の市民しんぶんがあれば、助かる。
	市民しんぶんや区民しんぶんの外国語版があれば、市民の国際意識が高まると思う。
	使用言語を日本語に限定してしまうと、活躍の場が狭まるため、多言語での対応や通訳の配置がといった取組が必要だと思う。
	日本語の特性上、仮名を振るだけではなかなか伝わらないことがわかった。
やさしい日本語による啓発・情報提供	実際に、防災についてのワークショップに参加したことがあるが、分かりやすくとても勉強になった。ワークショップの参加者の中には、普段は通訳が必要な方もいたが、通訳が全くいらぬくらい分かりやすい説明だった。
	日本語をあまり理解できない方にも理解できるようにご説明し、それがすぐに実生活に役立っていることがわかった。
	日本に來られてまだ慣れていない方も「やさしい日本語」であれば分かったということ、それぞれの国に合わせて多言語で話すということも大事であるが、言語の一つとして「やさしい日本語」があることがわかった。
	「やさしい日本語」が全国に普及されることを願う。
	外国人と接するとき、私たち日本人はつい英語で話さないといけないと考えてしまう。
	私たちみんなが様々な言語を学べるわけではないので、多言語の一つとして「やさしい日本語」をもっと意識していくことが大事だと思う。日本で暮らす外国人との共通言語は、「やさしい日本語」だと感じた。
	「やさしい日本語」が防災の面でまず使われていけばいいと思う。
	先日参加した防災訓練では「やさしい日本語」が使われていなかった。防災訓練の場をはじめ、もっと日常的に活用されていけば良いと思う。
	「やさしい日本語」を書く場合は、言い換えの言葉リストを見るなどそれなりに対応できると思うが、話す場合は非常に難しいと思う。
	「やさしい日本語」を一番必要とするのは、日常のコミュニケーションの場だと思う。災害時の情報伝達という面での重要性もさることながら、近隣の外国籍市民等と話すときのツールとして役立つのが「やさしい日本語」だと思う。
	「やさしい日本語」が近隣の外国籍市民等と話すときに役に立つということがもっと広まればいいと思う。
	教員や行政職員は、やさしく話すことが苦手である。その点を意識して、研修でも取り上げていただきたい。
	英語や他の言語を話さないといけないと思われるが、日本語でもやさしく話せば伝わることも多くあるということを知ってほしい。
	アメリカの美術館ではイヤホンガイドに「イージーイングリッシュ」というものがある。社会の中でネイティブが話す言葉を理解することが難しい人への配慮ができている社会だと思う。これから多文化が進む中で、日本でも必要だと思う。
	日本に來て30年経っても日本語が分からない方が多い。日本語の勉強ができない方がとても多い。
地域との交流に外国人の方にも入っていただこうと考えている。そのためには、「やさしい日本語」を学んでおくことが大事だと思う。	
色々な多言語の一つとして「やさしい日本語」が共通言語になる。「やさしい日本語」を共通の言語として、防災教育だけでなく日常の交流においても使うことが重要であると学んだ。	

主旨	内容
やさしい日本語による 防災教育	日本に来て間もない留学生に対しても、防災のワークショップを開いていただきたい。日本で生活するに当たり、防災の知識を得ることは重要であり、来日直後に受講することで危機感を持つことができると思う。
	留学生として来日し、阪神・淡路大震災と東日本大震災の両方を経験した。知識が全くなかったので、防災に関する説明を一度でも聞いていたら違っていたと思う。
	避難訓練は日本人にとって重要な防災教育の一つであるが、ましてや外国人にとっては非常に重要な命を守るための教育だと思う。
	「やさしい日本語」による防災教育を行うことで、外国籍の方も日本人と同じような形で災害から身を守ることができる。そのために、行政の方も市民の方もみんなが参加できる機会を充実させていきたい、充実させていくということが重要だと分かった。
外国籍市民等に向けた 情報提供方法	相談窓口や各種団体の情報を記載した冊子を作成し、地域の町内会・自治会の役員や民生委員等に配布し、その冊子を地域で困っている方に渡してもらうということも可能だと思う。
	留学生が来日した際、多くの場合は不動産会社を經由して部屋を探す。そのため、外国人向けの相談窓口や各種団体の情報を記載した冊子を不動産会社にも配布できれば、不動産会社はとても助かり、留学生にとっても非常に良いと思う。
	空き家と留学生を結びつけること、留学生やそれ以外の外国籍住民が増える中で情報提供していけるシステムづくりを審議会として提案したい。
	情報を提供することが外国籍の方々にとって大切である。
	外国人にとって家族と連絡を取るのに便利なのがフェイスブックなので、フェイスブックにいろいろな情報をほしい。